

学校だより

Vol. **100**

2016.4



Contents

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 02 専攻科修了・卒業式告辞 | 22 クラブ活動等の結果 |
| 04 祝 卒業・修了 | 24 vol.100 記念企画
高専親子特集 |
| 17 卒業生・修了生の進路 | 26 私の高専時代 |
| 18 学生会 | 28 TOPICS |
| 19 磐陽祭 | 30 退職者ご挨拶 |
| 20 全国高専ロボコン・プロコン | |
| 21 全国高専デザコン・プレコン | |



独立行政法人国立高等専門学校機構
福島工業高等専門学校
 National Institute of Technology, Fukushima College

第11回専攻科修了証書授与式

第50回卒業証書授与式



第11回専攻科修了証書授与式・ 第50回卒業証書授与式 告辞

福島工業高等専門学校 校長 中村 隆行



修了生・卒業生諸君、修了・卒業おめでとうございます。

本日、ここに、多数のご来賓と、修了生・卒業生の保護者の皆様のご臨席をいただき、第11回専攻科修了証書授与式並びに第50回卒業証書授与式を実施出来ますことは、教職員一同、誠に慶びとするところであります。ご多用の中、御出席いただきました、御来賓の皆様、並びに保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本日、本校を巣立つのは、専攻科の、機械・電気システム工学専攻11名、物質・環境システム工学専攻14名、ビジネスコミュニケーション学専攻2名の専攻科修了生計27名、その内、復興人材育成特別コース修了者6名、並びに、本科生として、機械工学科33名、電気工学科39名、物質工学科32名、建設環境工学科40名、コミュニケーション情報学科33名の計177名です。

修了生・卒業生の諸君、諸君が本日ここに晴れて卒業式を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に励み、精進を重ねてきた結果です。諸君のこれまでの努力に敬意とお祝いの気持ちを表したいと思います。また、本日、諸君が晴れてこの卒業の日を迎えることができるのは、ご家族の愛情と援助、教職員の熱心な指導のお陰であります。諸君を育ててくれたすべての方に、感謝の

気持ちを持っていただきたいと思います。

修了生・卒業生の保護者・御家族の皆様には、本日、御卒業のお子様を、このように立派に育て上げられたことに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、本日、福島高専を巣立つ諸君に対して、諸君が在学中に、私は、何度か述べてきましたが、次の3つの観点について、あらためてお願いしたいと思います。

一つ目は、「世界に活躍する」ということです。グローバル化が進んで世界が小さくなり、様々なことが日本だけでは完結しない時代になってきています。また、ヨーロッパの移民問題などを見てもわかるとおり、世界の国々の関係にも変化が見られてきています。諸君の様に、これからの日本を背負う若者は、世界の人たちと情報交換をし、あるいは様々な国際的な場で、しっかりと意見を伝えることが出来るなど、「世界に活躍する」という観点が、ますます要請されてくると思います。卒業後も、英語の学習を怠ることなく、自ら世界の様々な情報を取ると同時に、世界に対して情報発信するなど、世界を視野に入れて、自らの向上・発展に努めてほしいと思います。

二つ目は、「イノベーション人材」です。産業構造が変わり、情報化が進む中で、資源のない日本は、付加価値を高める産業を興していかなければなりません。そのためには、既存の情報を活用し、創意工夫が出来る人材となる必要があります。修了生・卒業生諸君は、そういった、アイデアを生み出すことの出来る「イノベーション人材」となることを、卒業後も目指してほしいと思います。皆さんは、これまでの福島高専での勉学を通じて、既に、このことの重要性を十分に認識していると思います。



最後の三つ目は、「いわきから」という視点です。これは、「福島から」と言い直すことも出来ると思います。東日本大震災から、5年が経過しました。しかしながら、福島は、福島第一原子力発電所の事故の影響があり、震災復興はまだその途上にあります。一昨年、6月に取りまとめられた、福島・国際研究産業都市構想、いわゆる「イノベーション・コースト」構想は、そういった福島浜通りのマイナスの状況をプラスに変え、世界が注目する福島浜通りの再生を目指すものです。

修了生・卒業生の中には、今後、この「イノベーション・コースト」構想の具体化に、直接かかわる諸君もいると思います。また、福島から離れる諸君も多いと思いますが、原子力発電所の廃炉には、今後、数十年かかると言われており、修了生・卒業生の母校となる福島高専は、この課題に今後とも取り組み続け、地域の復興に貢献しているということを忘れていただきたいと思います。

本日までに、修了生・卒業生諸君が、本校で身につけた十分な基礎力と、それに基づく創造性と実践性、そして、寮やクラブ活動などで培った人間力は、これからの福島や日本を考え、諸君の夢を実現するために十分なものと信じています。さらに、継続的な努力と目標を成し遂げようとする意志が加われば、これからの人生において、諸君が直面する様々な困難に打ち勝ち、また、様々な試練も克服出来るはずで

自らに自信を持って、健康に留意し、自らの夢を実現してほしいと思います。諸君の力で、すばらしい人類の未来、日本の未来、地域の未来を築いて下さい。

最後に、諸君のこれからの人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。





卒業する皆さんへ願うこと

機械工学科 5年担任 高橋 章

卒業おめでとうございます。担任として3年間皆さんと接してきましたが、皆さんの人柄とクラスの雰囲気がとても良く、それによって助けられてきたことに感謝しております。

さて、皆さんの今後の成長をととても楽しみにしております。それから、皆さんの幸福を願っております。それでは、幸福はどのようにしたら掴むことができるのでしょうか？何かやりがいのあることをして、目標を達成したときに、困難の大きさに比例して達成感の喜びが大きくなり、幸福の度合いが大きくなると思います。「磨斧作針（まふさくしん）」という故事があります。これは斧を研磨して針を作ることからできた言葉ですが、どんなに困難なことでも忍耐強く努力すれば必ず成功するという意味です。一歩でも前に進むように

してみてください。努力を無駄にしないように着実に自分のものにして幸福を掴んでほしいと思います。また、余裕を作ることも大切です。物事を行う際に、早めの行動をして準備を十分にしてほしいと思います。予定より遅れることは多く、早くできることはあまりありません。また、余裕がなくなると、疲労が蓄積し、健康を損ねることもあります。健康であることも幸福につながります。決して無理はしないで済むように計画してください。目標の立て方ですが、社会に貢献するというのは如何でしょうか？結果として、自分自身のためにもなります。

ところで、やらねばならないことは、いつやるのでしょうか？

	担任の高橋 ありがとう 楽しい思	章先生、 とうござ い出ありが	前担任の馬場 いました とうござい	蔵人先生 ありがとう ました
高専と祭の生活 で大事な経験 をすることか でお世話に なりました。 吉田 渉	5年間楽しか たぜ！ありが とー！サンキュー！ 渡辺恭典	皆様のおかげで 人生、変わりました。 出会いに感謝。 木村 亘佑	明日か あるこ 太 元希	あり が とう 高木 勇佑
退屈するこ のない日々 には感謝 しています。 鈴木 智也	今までの人生の中 で高専生活が1番 楽しかった！これ もみんなのおかげ！ ありがとう！ 栗林 昂広	い わ き 世 界 人 横山 琢弥	お世話に なりました。 野口 翔矢	このメンバーで 3年間楽しく できました。 ありがとう！ 鈴木 智也
色々経験でき て楽しかったです。 ありがとう 二宮 謙太	急がしくてつい ばかりでしたが、色 々楽しかったです。 またみんなと集まる 時を楽しみにして います。 宮土 巨佳和	大人になっても、忘 れない、かけがえのない 時間と先ありがとうございました！ 課題に追われていた日 にも先生に怒られた日も、今思 えばとても思い出です。 馬鹿野郎 元太郎	楽しい 5年間 でした。 加藤 将	楽しい 高専生活 でした。 横井 巨
なんだかんだ ラグビーや、 良かった！ 新しい事に 挑戦しよう！！ 本田 耕太郎	5年間長くて短か った、そして楽しか った。 Thank you!! 比佐 健人	オネエは ただの趣味 でした♡ ありがとう！ 長瀬 年一郎	ここまで頑張 ったのもみんな のおかげです！ 5年間ありがとう！！ 渡部 愛理	キラガ濃 い人達 が多く、毎 日が楽し い日々で した。 相勇 輝
色々大変 でしたが、 楽しい高専 生活 でした。 宮澤 竜治	風 横田 敦久	楽しい高専生活 でした。 この思い出は、 一生忘れず 高木 諒	皆、5年間ありがとう ！半前は大変だっ たけれど、中身の 濃い高専生活 でした。苦しい ことも今思えば 思い出です。 相川 欽	5年間ありがとう、 半前は大変だっ たけれど、中身の 濃い高専生活 でした。 相川 希也
5年間楽し かったです。 橋本 健吾	5年間毎日楽し くに過ご しました。 ありがとうー！！ 石井 蒼馬	5年間ありが とうございま した。 色々ツラか ったけど、 いい思い出 です！ 坂本 淳	5年間ありがとう！ 毎日が楽しい日 々でした。良い 思い出 があります！ 萩原 佑斗	5年間あとい う間 でした。おど く 楽し かった であ りが とう！！ 山下 秀
充実した 5年間を ありがとう！ 加藤 智也	楽しい5年間を 過ご しました。 ありがとう！！ 櫻井 健太	5年間ありがとう このメンバーで高 専生活と遊ぶこと ができて本当に よかったです。 金成 泰平	笑顔で... 小野 敬裕	楽しい5年間 でした。 みんなありがとう！ 西 瑛



5年前の自分、5年後の自分

電気工学科 5年担任 山田 貴浩

東日本大震災の爪痕が残る中、通常より1ヶ月遅れの入学式からスタートした君たちの高専生活も、いよいよゴールですね。あの入学式に、君たちはどのような気持ちで臨んだのでしょうか。きっと、「こんな学生生活を送りたい」、「あんな進路に進みたい」、「ちゃんと勉強について行けるかな」など、それぞれの思いがあったことでしょう。

そして卒業を迎える今の姿を入学当時の自分が見たとしたら、どのように映るでしょうか。君たちには、当時の自分に「5年後はこうなっているんだから自分を信じて頑張れよ」と言ってもらいたいです。もしかしたら、今の自分に自信を持っていないと言う人もいるかもしれません。でも、そんな心配は無用です。本校で5年間過ごして、色々

な面でそれぞれちゃんと成長しているのですから。

それでもまだ自分に自信が持てないというのであれば、これから自信を持てるようにすれば良いのです。そして5年後に、今の自分に向かって「5年後はこうなっているんだから自分を信じて頑張れよ」と言えるようになってください。5年後の自分に「あの時もっとしっかりやっていれば良かった…」と後悔させないように、今この時を新たな出発点として、何事にも前を向いてしっかり取り組んでください。君たちならきっとできるはずですよ。

最後になりますが、君たちの担任を務めることができ、私はとても幸せでした。貴重な3年間をありがとう。そして、卒業おめでとう。

5年間 ありがとう!! 鈴木裕司	5年間 楽しかった みんなありがとう! 岡田 真樹	みんなに充実した 5年間を送れたのは、 みんなとの出会いがあったから です!! ありがとう! 山本 徳貴	5年間 ありがとう 長澤 征太	5年間 楽しかった ありがとう!! 貝ノ君 浩一郎
たのし かった 佐藤 瑞起	5年間 楽しかった! 森下 英樹	5年間 ありがとう 宇根 登輔	5年間 とてもありがとう 矢内 捷一	5年間 とてもありがとう 園部 佑弘
5年間 ありがとうございました 鈴木 孝幸	みんな 5年間 ありがとう! 全成 憲吾	5年間の人も 30人の人も みんなありがとう! 小野 郁朗	みんな 5年間ありがとう 鈴木 智大	5年間 楽しかった 斑目 拓未
みんな ありがとう 小野 顕弘	みんな楽しかった! 5年間ありがとう! 青木 悠	女子を 生きろや いのよ。 木村 峻佑	5年間 ありがとうございました 須藤 裕星	途中から たまたまけど 仲良くしてくれて ありがとう 武 樹
5年間 ありがとうございました 遠藤 優斗	5年間 色々学べて 楽しかった 有我 拓也	充実した2年間 でした。 ありがとうございました 瀬谷 祥史	5年間 ありがとう ございました 永井 智志	楽しい5年間 でした! 滝澤 祥
あとというまの 5年間でした。 ありがとう!! 徳永 大輝	木甲斐ない 自分に5年間 付き合ってくれて みんなありがとう! 岩井 辰樹	5年間 胆力けてくれて ありがとう! 馬上 優介	楽しい5年間でした アロバロバ ございました! 鈴木 翔	最高の仲間と 最高の5年間と ありがとう! 小川 大雅
途中1/4くらいは 本物の2倍楽しかった。 農畜が楽しかった 谷 尚	1年という短い 間でしたが、ありが たうございました。特 に山田石研室のみんな 色々助けていただき、本 物にありがとう。もし、色 々なこと、熊田 謙也		5年間 ありがとうございました 宮崎 達教	と 5年間!! 7/お世話に なりました!!! 渡邊 漸成
5年間	みんな	今まで	ありがとう	
本物の "たがみ"は... 野口 春浩	本物の "やない"は オレだ! 矢内 優	本物の "しん"は オレだ! 渡部 瞬	本物の "ゆうき"は オレだ! 花田 裕樹	



平成27年度5年物質工学科の皆さんへ

物質工学科 5年担任 押手 茂克

卒業おめでとうございます。私が、皆さんの担任になって、早いもので3年がたとうとしています。皆さんは直接に知らないことですが、皆さんが入学したての1年生から2年生にかけては、低学年の担任の先生（道上先生、高橋先生）と物質工学科教員とをつないで円滑に教育を実施するための学科連絡委員をしていました。そのために、実質的には、皆さんとは5年間関係しており、2016年3月を迎えるにあたり、非常に感慨深い思いです。思い返せば、学生実験、体育大会、学年行事・・・、挙げていくと思えばなしで終わってしまうくらいです。毎日が貴重な思い出で、非常に充実したあっというまの3年間（実質的には5年間）でした。

4月からは、自分の夢に向けて、それぞれ別の道を歩むこととなります。2年生の学生実験の初めに話したことですが、もう一度伝えたいと思います。「自信を持って臨んでください！ただし、過信せずに一つ一つを確実にこなしてください！」。新しい生活環境、新しい仲間たち、興味深い多くの事柄、そして、より力をつけるべく励むこともあると思います。皆さんの原点となる福島高専物質工学科で学んだことを思い出して、一生懸命に自分を磨いてください。いつまでも皆さんの元担任の一人です、近くに来た折はいつでも福島高専を訪ねてください。専門家として大きく成長した姿に出会いつつ、思い出ばなしをすることを楽しみにしています。

<p>このクラスで 卒業にやかった!! 5年間 いんたんに お世話になりました おかげさまでちよー とのしかりました!!</p>	<p>ながよしとす めめ楽しかった!!! 卒業してもみんな 集まりたいいなあ... 葉葉 なつみこ</p>	<p>5年間をこの1マスで 表すなんて無理です (笑) 毎日楽しかったです!! みんなありがとう!! 佐川千寿</p>	<p>3年間楽しかった! 卒業してよかった 会おうね! 大学 や仕事がんばって ね! SHOFIYAH SAKINAH (ソフィ)</p>	<p>このクラスはなかった とこまで生きてこれ なかった!!! 5年間本 当にありがとう!! また集まろう! 渡邊健太</p>
<p>高専でこんなに楽しい 時間過ごせると 思いませんでした! 5年間ありがとう! 小野佑介</p>	<p>このクラスの メンバーが お前達で よかった!! 有難う!! 齊藤 甲寿</p>	<p>ありがとう。</p> <p>松高篤司</p>	<p>レポートもテストも みんなです乗り越えて きた仲良し5物が ほんとに大好きです!! 頼りない委員長だっ けど色んな思い出 ありがとう!! 菅原修希</p>	<p>みんなのおかげで 楽しい5年間を 過ごせました。 ありがとう!! また集まろうね!! 佐々木夏子</p>
<p>みんな5年間 ありがとう! 品田紗世夏</p>	<p>5年間の1人に なれて本当に よかった!! みんなと語り合うの 会しようね!! 根本 恵</p>	<p>5年間毎日楽しかった! 色んな思い出の中で 本当よかった!! またいつか会いましょう! 卒業してもみんな頑張れ! 青木大地</p>	<p>本当に人に感謝した 5年間は思い出がいっぱい! みんなの思い出がいっぱい! いつまでも忘れません! 5年間本当に楽しかったです!! ありがとう!! 齋藤 貴博</p>	<p>出会えた事が 本当に嬉しかったな。 一緒に居てくれて ありがとう。 宝物もたくさん もらいました。 また会おうね。 阿部 美佳 加</p>
<p>5年間、毎日が 夢のよう楽しい 時間だった。 みんなありがとう! また会いましょう! 佐藤 瑞希</p>	<p>楽しい5年間でした。 個性的な人が たくさんいて 退屈せず毎日 過ごしました。 藤井 樹</p>	<p>みんなー ありがとうー♡ みんなー だいすきー♡ とても楽しかったです。 相田 玲奈子</p>	<p>楽しくて充実して 最高の5年間だった! またみんなと会える のを楽しみにしてる 5年間ありがとう! 谷地 越祐</p>	<p>かけがえのない 思い出がアゲアゲ できました!! (500)/ 5年間のみんなが 大好きです! 唯</p>
<p>5年間、毎日楽しく 最高の思い出が できました!! 5年間 ありがとう! 大好き です!!! 鈴木 道</p>	<p>5年間 ありがとう! 色んなと 出会えて 楽しかったです。 星 瑞穂</p>	<p>5年間 とても楽しかった!! お揃いで 集まりましょう!! 佐藤 駿介</p>	<p>全員が明るくおもしろ しいクラスだった ので5年間退屈 せず楽しくすご しました。 みんなありがとう! 相田 裕磨</p>	<p>5年間、ゆるく楽し ましたな気がします。 ありがとうごさ いしました。 西郷 知樹</p>
<p>大きなお礼もなく 楽しい過ごせました。 5年間楽しかったです! 新川 真弘</p>	<p>5年間 本当に 楽しかったです。 ありがとう ございました。 相田 貴文</p>	<p>楽しい5年間を ありがとうございました。 これからは別々の道を進 むことになるが、これからも がんばりましょう! 鈴木 直也</p>	<p>5年間、短かた ですが楽しかったです 本当にありがとう ございました 角田 元</p>	<p>みんなのみんな ありがとう たのしかったです いっしょにありがとう 大坪 南寿</p>
<p>本当に楽しい5年間 でした。5年間のみんな に感謝です。 ありがとうございました。 斎藤 良村封</p>	<p>5年間ありがとうございました。 みんなと過ごせるのは 数年、数十年後に、笑って 胸を叩いて喜んでくれる お互いに頑張りました。 ほんの少しの時間です! 斎藤 快</p>	<p>留年は人生の 財産。 今でも有難う。 加藤 和志</p>	<p>クラスのみんなの おかげで5年間 楽しく頑張れました! ありがとうの 小野 晶子</p>	<p>お世話になりました。 本当にありがとう。 木田 一史</p>
				



ここでひとまず区切りをつけて

建設環境工学科 5年担任 原田 正光

いよいよ福島高専を卒業ですね。おめでとうございます。

思い返すと、入学は大震災直後でした。高専合格は決まったものの、この先どうなるかわからない不安でいっぱいだったと思います。1か月遅れで高専の学生生活が始まり、新しい環境に慣れるのに苦労しながら、不安も少しずつ薄らいでいった5年前だったのではないかと推察します。

入学後は、途中で高専がいやになって学校をやめてしまおうかとあきらめかけた人、毎年単位取得に苦労しながらどうにか進級を続けてきた人、など40人それぞれが自分の高専ヒストリーを刻んできましたが、いよいよここで卒業です。

みなさんは、気持ちのうえでも、ここでひとまず区切りをつけなければなりません。そして、新

しい気持ちでスタート台に立つことが必要です。就職する人は、働いて社会に貢献するため責任はずっと重くたいへんですが、組織における自分の立ち位置をしっかりと認識して、きらりと光る存在になってください。大学に編入学する人は、いち早く学びの環境に慣れて、自らの専門分野を深めていってください。本校の専攻科に進学する人も、環境にこそあまり違いはないかもしれませんが、さらに高いステージを目指す意気込みは持ち続けてください。

これからスタートする個々の人生において、これまでの高専生活で取り組んできたこと一つ一つに無駄はなく、それらが貴重な糧となると思います。みなさんそれぞれが素晴らしい未来を切り開いてくれることを祈念します。

5年間ありがとう! 楽しかったです! 青木健一郎	5年間楽しく 過ごせました。 みんな ありがとう 青木智世	すごく楽しい 5年間でした! 仲良くしてくれて ありがとう! 神部光	5年間 とても 楽しかったです。 本当にありがとう 細代拓人	また、 会おうな 磯上良輝
5年間、 事故はあわず、 幸せだ。 磯上瑞帆	5年間 お世話に なりました! 楽し かったです。ありが とう! 遠藤健悟	5年間 ありがとう(^^) 幸せになりました! 小澤友子	お世話に なりました!! さよなら... 小野嘉己	今までありがとう 札幌に来るときは 連絡してね! すまのぞ飲ませ よう!! 金成雅季
5年間 ありがとう! 狩野宏太郎	2回謹慎した けど、卒業でき れば幸せだ! 川又雄一朗	身体に 気をつけて! 川村お生	部活は「かて」 疲れました... 引退してからの 半年めちゃくちゃ 楽しかった!! 神部光	お花 集ろう!! 熊谷純樹
お世話 になりました 本当に感謝! 鈴木景祐	無事に卒業 できます。 お世話になりました! 佐川浩眸	楽しかったです ありがとうござ いました。 佐藤文啓	5年間の 学生生活は 良い思い出です。 佐藤優樹	5年間楽しかった! ありがとう ございました 佐野友啓
いろいろな人に お世話に なりました。 ありがとうござい ます! 佐波克久	5年間でたくさん いい思い出ができた。 みんな、ありがとう! 楽しかったです!! 志賀裕太郎	人生 最高 かよ しけ	5年間、 楽しい毎日、 ありがとう。 大塚沙由里	最高の5年間 でした! オムロ ありがとう! 瀬谷旺二郎
高専はいい所 でした みんなありがとう! 高橋誠汰	このクラスで 5年間過ごせて 良かったです。 ありがとう!! 田邊 陽	5年間、 思い出たくさん、 タカラモノ。 仁平成美	ひたすら楽しくて、 あっという間の 5年間でした。 今までありがとう! 原田真衣	5年間ありがとう!! 新幹線乗りたい ときは連絡よろしく お願いはす笑 星 祐太
5年間、 1日たりも ムゲンない。 本間 瑞生	5年間、 ありがとう ございました。 松崎慎也	本当に本当に このクラスで 良かったです! ありがとう! 三浦 千明	たくさん笑い ました。○ みんな ありがとう😊 糸巻川果夏	5年間 とても 早かったです。 今まで ありがとう! 宮脇 公平
あ、という間の 5年間でした! とても楽しかったです 山部松雅	5年間 楽しかったです! 吉田 慶太郎	5年間 あっという間でした。 みんな本当に ありがとう!! 吉成 結菜	5年間ありがとう。 最高に楽しかった です。😊 渡部 凜大	みんな ありがとう。 国介拓哉



カルガモは白鳥になりました

コミュニケーション情報学科 5年担任 湯川 崇

ご卒業おめでとうございます。3年前みなさんの担任として教室に初めて入ったのが、ついこの前のことのように感じられます。

学級担任として何をしたいのかもわからないまま教室に行きましたが、その第一印象は「カルガモのお母さんになったみたい」でした。まだ制服を着ていたことや、高専の自由な校風のためにそう思ったのでしょう。

研究室が教室と近かったせいか、いろいろな人が研究室に顔を出していろいろな話をしていくようになり、全員の名前を覚える頃にはクラスの雰囲気もだいぶ分かるようになってきましたが、みんな素直で性格がよく、もっと勉強をしてくれることだけが担任としての望みでした。それも5年生になり、進路のことを考えてそれぞれが目標に

向かって努力を続ける姿を目にするようになってからは、杞憂に過ぎなかったと反省をしています。

授業、部活動、ゼミナール、インターンシップ、就職活動、受験勉強など、各種行事や課外活動を通して頼もしく成長して卒業を迎えた今、どこにでも飛んでいくことができる立派な翼を手に入れたみなさんのことを少し羨ましく思っています。

4月からは新しい生活が始まります。面倒見の良かった高専とはちがい、これからは辛いことにも数多く直面するかもしれません。卒業後の進路は進学・就職とそれぞれ異なりますが、福島高専の5年間で身につけた知識や経験を武器に、それぞれの持ち味を発揮して乗り越えて行くことを確信しています。

あつという間の 5年間でした。 みんなに出会えて 良かったです。☺ ありがとう！ 安達 菜奈美	長いとで 本当に早い5年間 でした。支えて くれたみんなに 感謝です♡ 安藤 真珠	5年間 みんなの おかげで楽しく 過ごせました。 ありがとう ア 伊藤 睦	本当に7月の方に お世話になったこと 突然思いが ありがとうございました 若刈 美咲	5年間 あつという間 は楽しかったです。 ありがとうございました。 卒業して、みんなの ことは忘れません！ 後田 駿聖
みんな 元気でねー ありがとう！ 大滝	5年間みんなと同じ クラスで見た目で 迷惑をいろいろかけ たと思うけど、みんなの おかげで本当に楽しく 過ごせました。 ありがとう 森田 真美	今までたくさんの人に 助けられてここまで くることができました！ 本当に皆さんには 感謝です。いよいよ ありがとうございました カ 加藤 希香	5年間ほんとに 楽しかったです。お みんなと過ごした 時間は、大切な 思い出です！ ありがとう。菅野 茜	この5年間たつさん の方に助けて いただきました。 本当にお世話に なりました。 橋内 聖也
5年間、すこ 楽しかったです。 また会えよう ように 国P	無事に5年間 過ごせたのは みんなのおかげ です！楽しかったよ ありがとう!! 小松 優	充実した楽しい 5年間でした。 みんなと学生生活 送ってよかった!! ありがとう 齋藤 佳菜子	5年間無事に終わり ました。このクラスで 本当に良かったです。 楽しい学校生活に なりました。卒業後も 会える日はあります。 H 齋藤 佳位	5年間とても楽し かったです。 みんなと過ごした 時間は、全部思い出 です。このクラスで5年間 お世話になりました。 みんなありがとう。 酒井 大志
5年間 お世話に なりました!! どれもありがとう ございました。 櫻庭 史歩	15歳から 20歳まで とても貴重な 時間でした。 みんなありがとう! 佐藤 文	5年間ありが たうございました! この学校、 このクラスで本 当によかったです。 三戸 初希子	みんな 5年間ありがとう みんな 大好きだー!! 関口 敬太	5年間 ありがとう ございました。 卒業後も仲良く して下さい 光崎
5年間 お世話にな りました!! 楽しかった 特に保護者会、部活 の皆様 Thanks 給 お元気で (●◎◎◎) 田中	5年間、クラスメイト みんなと過ごして、 とても楽しかったです。 お世話になった 皆様、お元気で ください。谷平 玲奈	5年間 あつという 間でした。このクラス での学生生活楽し かったです! ありがとう ございました。 根本 佑子	みんな ありがとう そして、 さようなら 久田 宗一郎	5年間 とても楽し かったです。☆皆に出 会えて良かったです!! 高専 に来た最高の思い出 ができました。皆に 感謝です。◎ 井美 潮
5年間大変お世話に なりました! いろいろな機会 があれは、本当に 良かったです。お元 気で 藤田 彩明	楽しい思い出 (ぞっかりです) みんな これからも よろしくね!! まだぬ ス	この道を選んで 本当に良かったです。 馬目	5年間 あつとい う間でした! みんなありがとう これからも頑張 ろう!! 宮澤 隆平	5年間 ありがとうございました! みんなのおかげで 毎日楽しく過ごせ ました。 村上 あずさ
クラスの皆のおか げで、充実した 日々を過ごすことが できました。 本当にありがとう! 日向子	5年間ありがとう ございました。 長いと思ったけど あつという間では 楽しかったです。 紫葉子	色々みんなに支え られてここまで来て ました。仲良く してくれた人たちに 本当にありがとう。 みんな元気です!! 吉田 優花		

祝 修了 機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻



限りなく広がる前途へ

機械・電気システム工学専攻
専攻長 寺田 耕輔

ご卒業おめでとうございます。さて、これから社会人あるいは大学院生としてご活動されるみなさんへ贈る言葉について考え、想いをめぐらせました。在学中のみなさんと私とがいっしょに過ごした時間は、短いものでしたが、学生時代の出来事は、一生記憶に残る印象深いものです。それにふさわしい言葉として、“限りなく広がる前途へ”と題しました。

2016年が明けて早々から、世界経済の動向は、多くの評論家が予想しがたいマイナス金利政策・世界同時株安・原油安・チャイナショックなどにより混迷を深めており、極めて先の読みにくい時代になったことが新聞やニュース番組などで報道されています。

また、技術動向においても、電力自由化、完全自動運転、人協働ロボット等の普及により、近い将来における私たちの社会の職業構成、医療福祉、労働や家庭環境などは、現在の状況とは大きく変貌していくであろうと予測され、人類が経験したことのない規模の産業革命を迎えるとも指摘されています。

このようなことから、私たちは、先の読みにくい大きく変動する時代に生きていることは確かであり、若いエンジニアの活躍が大いに期待されています。みなさんのような若いエンジニアの前途は、限りなく広がっていると言えるでしょう。

グローバルに、そして多くの分野において、限りなく広がる前途へ向かって進み出すみなさんのこれからのご活躍をお祈り申し上げます。

かけがえのない時間

機械・電気システム工学専攻
2年 五十嵐 礼

卒業を間近に控えた今では、福島高専に入学したことが少し前の事のように、そして専攻科に入学したことはつい最近の事のように思え、時の速さを感じています。

低学年の頃、私は電気電子工学実験に苦手意識を抱えていました。しかし、進級と共にそんな思いはなくなり、専攻科に進学するころには、新たな実験・実習に楽しさを感じていました。

専攻科ではより高度な内容を学び、学科の皆で遅くまで実習を行うことも多くありましたが、苦労を共にし、協力しあった友人達のおかげで楽しい毎日でした。また、先生方の熱心な指導もあって、充実した研究を送ることができ、多くの学会発表に参加して活発な意見交換ができたことはよい経験となりました。

特に印象に残る出来事は専攻科1年で参加した中東インターンシップです。不安も多くありましたが、こんな経験はこの先きっとできないと感じ、思い切って参加しました。慣れない海外の生活は大変でしたが、中東の人達との交流、自分の目で見える世界の風景、全てが新鮮で心に響くものでした。学生のうちに海外に行けたことは、視野が大きく広がる素晴らしい経験でした。

7年間の高専生活で本当に様々な経験をしてきました。社会人となっても、高専での経験と思い出が私を支えてくれると思います。最後になりますが、本科から長い間指導して下さった先生方、共に過ごした友人達に改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。

祝 修了 物質・環境 システム工学 専攻



学校生活と机の^{もくめ}木目

物質・環境システム工学専攻
専攻長 車田 研一

いろいろな成り行き上、担任や専攻長を連年うけもっており、この季節になると卒業される皆さんへ一筆書くのを依頼される役が廻ります。そして毎回いったい何を書けば気が利いた言になりえたものか、すこぶる頭を掻くことを繰り返しています。人生の「時間」において、この反復性という一側面は、人生が人生として正常な意識のなかで生きられている以上、絶対に避けられないものです。よく「学校でやることは（きれいに再現可能なお仕着せの）^{モデル}模型的訓練にすぎず、皆は学校をでてから四方山の現実に直面していくのだ」と、教師が学生諸氏へ対して不注意に訓示してしまうものです（←反省）。しかし、否むしろ、毎年の反復性という人生の成立要件の回路にダブンと浸かった教師にとってはそれはルーチンの固定構造になっていて、入学して卒業していく学生にとっては学校での勉強・^{もくめ}研究生活はあくまでも一回的な木目をその都度^{もくめ}だけだたせていることを、教師の側が怠慢にも忘れていたのだと思います（←さらに反省）。木材から何度も机を造っていると、個々の木材が必ず具えている複雑な木目は、「机を造っている」という「総体的意味」に回収され、見えなくなってしまう。（P. ヴァレリー「芸術についての考察」）高専、とりわけ名実ともに高等教育課程へ移行していかなくてはならない専攻科課程においては、学生個人にとっての「学生にとっての一回的^{このときかぎりの}木目」を悔いなく提供できるよう教員こそが絶えざる研鑽を積みねばならない、と、立派に課程を修了して卒業される皆さんの若い背中をみて痛感しています。これからも元気に過ごしてください。ごきげんよう！

大切な仲間と共に

物質・環境システム工学専攻
2年 猪俣 龍一郎

専攻科修了を迎え、高専生活もこれで終わってしまうかと思うと、大きな達成感と共に名残惜しさも感じてしまいます。共に修了を迎えた大切な仲間たちとは、“学校”という括りでは最も長い7年間をともに過ごしてきました。時には意見をぶつけ合い、時には協力し合い、互いを認め合いながら日々を過ごす中で、切っても切れない絆を育めたと思っています。

今から約2年前に本科を終了し専攻科に入学しましたが、専攻科では今まで分かれていた5学科が1つになり、授業や時間を共に過ごす機会が増えました。学科の垣根を超えて、仲間たちと近くで過ごすことが多かった学校生活は、私にとって良い刺激となり、“専攻科は高専生活の続きではない”ということ意識させてくれました。

専攻科1年時の海外インターンシップでは、フランスで2か月間生活をしました。言葉もままならない異国の地での生活も、本科で苦楽を共にした仲間や新しい仲間が居たからこそ乗り越えることができたのだと思います。おかげで良い思い出や経験を日本に持ち帰ることができました。

今こうして振り返れば、本科を含めた高専で過ごした日々は、研究や授業、学校生活などで、本当に多くの方々に支えられてきたのだということをひしひしと感じています。私を技術者として育ててくださった先生方と、協力し助け合うことの大切さを教えてくれた仲間たちに改めて感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

祝 修了 ビジネス コミュニケーション学 専攻



社会にでるみなさんに

ビジネスコミュニケーション学専攻
専攻長 湯川 崇

専攻科で修了おめでとうございます。
このたび晴れて修了を迎えたみなさんは、心身ともに人生で最も成長する時期に本科+専攻科の7年間を過ごしたことになります。みなさんの脳裏には7年間の学校生活での各種行事や課外活動を通して経験した楽しかったことや苦労したこと、これまでに出会った人達とのやりとりなどのひとつひとつのできごとが懐かしく思い出されているのではないのでしょうか。

福島高専の教員はみな面倒見がよく、困ったことがあっても親身に相談にのってくれたのではないかと思います。みなさんがこれから生活していく社会は、経済成長を続けてきたこれまでとは違い、先の読めない不安定なものになるかもしれません。辛いことに直面してもまわりに頼る人がいないことがあるかもしれません。どんなときにも高専で身につけた知識や経験を武器に、困難に負けずにそれぞれの持ち味を存分に発揮して乗り越えて行ってもらいたいと願っています。

今回修了されるみなさんは、在学中に東日本大震災に被災し、大変な状況の中苦労して勉学に励んでこられました。福島の復興は道半ば、いまだ多くの課題を抱えている状況です。4月からは社会人としての新しい生活が始まります。これからは福島の復興を支えるために力を発揮していくことが期待されるでしょう。卒業後の進路は異なりますが、これからもそれぞれが目指す方向に向かって努力を続けて、活躍していくことを期待しています。

感謝の言葉

ビジネスコミュニケーション学専攻
2年 関根 季

15歳で初めて高専の門を潜った時から7年が経ち、いま終了を迎えようとしています。高専に入学して1番の出来事は、何と言っても最高の仲間たちに出会えたことです。勉学をはじめ、切磋琢磨して互いに成長してきました。一緒に試験勉強をして、たわいもないことで笑い合い、同じ時間を過ごしてきました。衝突することも度々ありましたが、15歳からの5年間という大切な時期を大切な友人らと過ごせたことは、私の宝物です。

本科を卒業して、就職や大学へ編入する友人と別れ、ビジコミで専攻科へ進学したのは、私を含め2人だけでした。少ない人数での授業は少し寂しい時もありました。しかし専攻科では、課題や試験はもちろんのこと、特別研究や海外インターンシップ、そして就職活動などに追われる日々で、気付けばあっという間に時間が過ぎてしまったように感じます。特に思い出に残るオーストラリアでのインターンシップでは、現地の企業の方や出国までのサポートをして頂いた先生に大変お世話になりました。慣れない環境に戸惑うこともありましたが、自分の人生の糧となる素晴らしい経験ができました。

最後になりますが、福島高専で7年前の自分では想像できないほど成長できたのは、尊敬する先生方にご指導頂いたこと、何でも相談できる友人をもてたこと、そして毎日お弁当を欠かさず持たせてくれ、陰ながら支えてくれた家族のおかげだと実感しております。本当にありがとうございました。

平成27年度 卒業生・修了生の進路状況とキャリア教育支援室の取り組み

男女共同参画・キャリア教育支援室 キャリア教育責任者 **齊藤 充弘**

平成27年度の本科5年生、専攻科2年生の進路決定状況は、下表の通りです。近年、本科5年生では就職と進学割合がおおよそ半々となっており、今年度も3月末までには、ほぼ全員の進路先が決定する見込みです。特に、就職については県内外の企業からの求人数が非常に多く、学科により若干の違いはありますが、就職希望者の20倍以上の求人票が届いており、大手企業からの求人があるものの、応募する者がいないという状況にあります。このことは、これまでの卒業生の各方面での活躍が高く評価されていることや、高専教育の実績とそれに対する信頼が表れているものといえることができます。

男女共同参画・キャリア教育支援室としましては、4年生の全学生を対象とした外部講師を招聘しての就職ガイダンスを開催して、進路について考える意識づけや自覚を図ったり、面接等指導講習会を開催して自己分析をした上で、エントリーシート・履歴書の書き方の講習や、面接に臨むに

あたったの常識や知識を身につけることを図ったりしております。また、希望者を対象に就職実践模擬試験や適性検査（自己分析・適職発見プログラム）を実施したり、公務員模擬試験を実施して、自身の適性や能力を図ることにも取り組んでおります。このように、求人の多さに慢心せずに周囲の期待に応えることができるように、学生の進路選択に必要な能力や心構えを養い、育むことに取り組んでいます。

また、進学に関しても、教務係を通して国公立大学・大学院の説明会が複数回開催されており、専攻科とともに進学希望者の増加にもつながっています。専攻科生については、大学4年生と比較してもその人物や能力が高く評価されており、修了生全員が進路を早々に決定しております。平成28年度の進路にむけての活動もすでにスタートしておりますが、引き続きその活動が順調に進むように祈念し、支援していきます。

本科生の進路（平成28年3月卒業）

（ ）は女子学生

区分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業生数	33(1)	39(1)	32(14)	40(11)	33(29)	177(56)
進学者数	15(0)	18(0)	18(6)	12(2)	18(15)	81(23)
就職者数	17(1)	19(1)	13(7)	27(9)	13(12)	89(30)
その他	1(0)	2(0)	1(1)	1(0)	2(2)	7(3)

専攻科生の進路（平成28年3月修了）

（ ）は女子学生

区分	機械・電気システム工学専攻	物質・環境システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
修了者数	11(0)	14(3)	2(2)	27(5)
進学者数	2(0)	6(3)	0(0)	8(3)
就職者数	9(0)	8(0)	2(2)	19(2)
その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)



学生会活動の1年を振り返って

学生会長 機械工学科 4年 根本 卓明

今年度は、学生会行事の運営状況を再確認することに活動の重点を置きました。

しかし、これらの活動は学生会の一方向的なものとなってしまう、行事運営してくれている学生たちとの見解は合致には至りませんでした。そのため、根本的なルールを理解してもらうことも不完全となってしまいましたが、お互いの行事運営に対する熱意を強く感じることができました。

来年度の学生会執行委員は低学年の学生が多く、学校全体を知ることからの、スタートになりますが、役員は熱意と可能性ある素晴らしい学生たちです。より協力的な関係を築き、その中で今年度達成できなかった課題を一つずつ解決してほしいと思います。すでに来年度以降に選挙改正を視野に入れた活動が予定され、退く身である私からしても頼もしいばかりです。

最後にこの場をお借りしまして、今年度学生活動を支えてくださった先生方、学生にお礼を申し上げます。

平成28年度学生会執行部役員選挙結果

役職	学年学科	氏名
学生会長	建設環境工学科3年	星 達也
副会長	物質工学科3年	高橋 昂太
書記	建設環境工学科3年	延松美優花
"	建設環境工学科1年	高橋 晃樹
"	物質工学科1年	三輪 拓美
会計	建設環境工学科2年	遊佐 和貴
"	電気工学科2年	小川 遼
"	コミュニケーション情報学科1年	福田くるみ
会計監査	機械工学科3年	佐々木和仁
"	電気工学科1年	四家菜々子
"	電気工学科1年	團野 美月
運動部部長	機械工学科3年	広瀬 陸
" 副部長	建設環境工学科2年	乙山 翔太
文化部部長	コミュニケーション情報学科3年	坂口理生奈
" 副部長	機械工学科1年	大野 拓磨
研究部部長	機械工学科3年	糸井 雄祐
" 副部長	機械工学科2年	塙 哲平



学生主事補 松江 俊一

磐陽祭実行委員長 建設環境工学科4年 原 匡彦

今年度の「磐陽祭」は、11月6日（金）に本祭準備および前夜祭、11月7日（土）に一般公開の本祭が行われました。両日とも天候に恵まれ、「ワッショイ！Enjoy！磐陽祭！～世代を超えて笑いな祭～」のテーマで爽やかな秋晴れの元、明るく楽しい笑顔の絶えない2日間を過ごしました。各学科とも前夜祭の出し物に向けて休み時間を縫って練習に励み、本番の前夜祭では非常に盛り上がりを見せました。2日目の本祭での一般公開では2100人を超える来場者を得て、文化部・研究部の成果発表や体育部の模擬店等を通して多くの来場者と交流することができました。また同時にオープンキャンパスとして各専門学科、専攻科、センターを公開し、特に地域復興支援室の取組みについては規模を拡大して来場者の関心を集めました。

今年も無事に磐陽祭を開催出来ましたのは、保護者の皆様、近隣地域の方々、関係機関の皆様のご理解、ご協力によるものです。心より御礼申し上げます。

今年度の磐陽祭は、幅広い年代の人達が共に楽しむもらえるように、という思いを込め「ワッショイ！Enjoy！磐陽祭！～世代を超えて笑いな祭～」をテーマとして掲げ、学生全員が一丸となって準備を進めてきました。

前夜祭では、各学科対抗で行われる高専生の特徴が生かされた発表や女装コンテストが行われ、本祭へ向けて学生のボルテージも次第に上がっていきました。

迎えた本祭では、ロボットの実演・吹奏楽の演奏・ダンス披露など各文化団体が日頃の鍛錬の成果を披露した渾身のパフォーマンスと、各運動部によるゲームや模擬店が校内を華やかにし、磐陽祭を作り上げました

また今年度もゲストとして、本校コミュニケーション情報学科卒業生である若狭さちさんがボーカルを務めるNeoBalladさんが出演し、会場を大いに盛り上げていただきました。

保護者の皆様、地域の皆様、またご協賛いただいた企業の皆様のご協力により、今年度も磐陽祭は大盛況のうちに終了することができました。実行委員会一同より心から御礼申し上げます。



全国高専ロボコン出場報告

学生代表 出口 直人

平成27年11月22日（日）、両国国技館にて全国高専ロボコン2015が開催されました。当大会の競技課題は、対戦形式で制限時間内により多くの輪をポールに掛けるというものでした。

大会には福島高専Bチームが制作したロボット「ぐる輪」が出場し、一回戦を突破しましたが、優勝した奈良高専との二回戦で敗退しました。このロボットは人のコントロールを介さず、自動でフィールドを移動し目的のポールに輪を掛ける事ができます。そこでロボットの動作をより確実なものにするために、高専の体育館での練習では、毎晩輪の射出位置の調整を繰り返してきました。そして、その成果である正確な自動制御の技術が評価され、田中貴金属株式会社の特別賞を受賞することができました。

4月以来、ここまでロボットの製作を続けていくことができたのも、支援して下さった保護者の皆様や学校関係の方々、そして大会を運営して下さったの方々のおかげです。この場を借りてお礼を申し上げます。また、この経験を次回に生かせるように頑張りたいと思います。



全国高専プログラミングコンテスト参加報告

プログラミングコンテスト指導教員 小泉 康一

平成27年10月11日（日）、12日（月）の両日、長野市ホクト文化ホールにて第26回全国高専プログラミングコンテストが開催されました。本校は競技部門のパズルゲーム対抗戦に出場しました。この内容は以下の通りです。まず、正方形ブロックを組み合わせたさまざまな形のピースがいくつか与えられ、さらにそれをはめ込むための敷地が与えられます。できるだけ速く、より多くのピースを敷地内にはめ込むことができるようにコンピュータに計算させ、一番良い解答を提出した学校が勝つというルールでした。ピースの形や数、敷地の形状は勝ち上がるごとに複雑になっていき、コンピュータで解くのも一苦労という競技でした。おもちゃ屋で売っているようなゲームの中でいうとチョコレート型パズルの発展形の競技です。本校は一回戦敗退、その後の敗者復活戦も敗退という結果でした。応援して下さった皆様には御礼を申し上げます。



全国高専デザインコンペティション参加報告

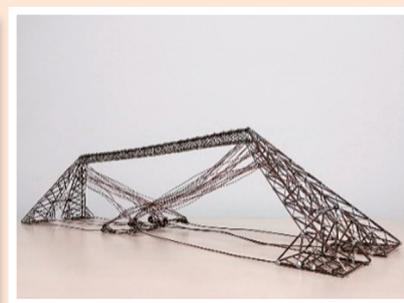
デザインコンペティション指導教員 齊藤充弘 加村晃良

平成27年11月14日（土）～15日（日）に和歌山市において、高専デザコン2015 in 紀の国わかやまが開催されました。

今回の構造デザイン部門は、銅線を材料としたメタルブリッジがテーマでした。長さ1mの橋梁模型をつくり、強さ・軽さ・美しさの観点で各チームが競い合いました。本校から2チームが出場し、結果は55チーム中21位と39位でした。

また、空間デザイン部門では「地域強靱化のための道の駅デザイン」というテーマについて、建設環境工学科の5年生5名が共同で、「はしる・とまる・ほるる～道の駅・ほるる～」を考案・製作して応募しましたが、残念ながら予選を通過することができませんでした。

今回はいずれの部門も課題を残す結果となってしまいましたが、次回の巻き返しに期待したいと思います。



全国高専英語プレゼンテーションコンテスト参加報告

英語プレゼンテーションコンテスト指導教員 加藤 明子

平成28年1月23・24日に、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで第9回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストが開催されました。本校からはコミュニケーション情報学科3年の岸佑里香さんがスピーチの部に参加しました。岸さんは、平成27年の夏に、オーストラリアアウンズビルに留学した経験から、「英語力の向上には前向きな気持ちと英語を使ってみる必要がある」という内容のスピーチを披露しました。平成27年10月に行われた東北地区予選を2位で通過した後、このたび行われた全国大会まで練習を重ねてきました。入賞には至りませんでしたが、本番では緊張しながらも堂々と自分の意見を述べました。また、大会期間中は、他高専の参加者との交流を楽しみました。



体育部

◎平成27年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■バレーボール部 (男子)

1 回戦敗退

■ソフトテニス部 (男子)

団体戦

1 回戦敗退

個人戦 鈴木 涼真 (1E)

猪狩 智也 (1K)

1 回戦敗退

■ソフトテニス部 (女子)

団体戦

2 回戦敗退

個人戦 古川 千尋 (2E)

福田 七唯 (1I)

〃 青木麻里乃 (1K)

大坊知里子 (1I)

2 回戦敗退

2 回戦敗退

■卓球部 (男子)

学校対抗

ベスト 8

ダブルス 加藤 翔 (2E)

谷本 純一 (1E)

〃 松崎 大悟 (1M)

山本 崇史 (1K)

シングルス 谷本 純一 (1E)

〃 加藤 翔 (2E)

〃 山本 崇史 (1K)

ベスト 8

ベスト 16

ベスト 16

ベスト 32

ベスト 32

■卓球部 (女子)

学校対抗

第 3 位
(東北大会出場)

ダブルス 高橋 百花 (2I)

岡部あゆみ (1I)

〃 小林 千莉 (2K)

鈴木 梨恵 (1K)

シングルス 高橋 百花 (2I)

〃 小林 千莉 (2K)

第 3 位

ベスト 16

ベスト 8

ベスト 32

■バドミントン (男子)

団体戦

2 回戦敗退

ダブルス 藁谷 真輝 (2M)

川音 裕也 (1M)

シングルス 藁谷 真輝 (2M)

〃 川音 裕也 (1M)

ベスト 16

2 回戦敗退

ベスト 16

■バドミントン (女子)

ダブルス 青田 理咲 (2C)

菅野 日和 (1C)

シングルス 青田 理咲 (2C)

2 回戦敗退

1 回戦敗退

■弓道 (男子)

個人戦 小野 泰輝 (2C)

尾崎 貴英 (2K)

準決勝進出
予選敗退

■弓道 (女子)

個人戦 諏江あきほ (2K)

佐藤 夏海 (2C)

新妻ゆきね (2C)

準決勝進出
予選敗退

予選敗退

◎第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会

男子400m 古和口 廉(4K) 予選敗退

◎第60回福島県高等学校駅伝競走大会

男子チーム 16位

◎第52回福島県選抜高等学校バスケットボール選手権大会

男子 2 回戦敗退

1 回戦 福島高専 67-63 須賀川桐陽

2 回戦 福島高専 35-86 福島商業

◎第13回福島県高等学校秋季ソフトテニス選手権大会

男子学校対抗団体戦 予選リーグ敗退

◎第39階NHK杯福島県クラブ対抗ソフトテニス大会

男子団体戦

予選リーグ敗退

Aチーム

決勝トーナメント 1 回戦敗退

Bチーム

◎第42回福島県ダブルステニス選手権大会(ジュニアの部)

兼 第31回東北インドアテニス選手権大会選手選考会

男子ダブルス 橋本 拓実 (2M)

※ペアは他校生 第 6 位

蛭田 貴之 (2E)

※ペアは他校生 ベスト 16

福永 勇満 (2K)

澤田 怜悟 (2C) 欠場

女子ダブルス 高橋 朋世 (2K)

伊藤 有紀 (2I) 3 回戦敗退

菊地 英里 (2I)

井上 舞 (1I) 1 回戦敗退

◎第 4 回福島空港公園秋季選抜ジュニアシングルステニス大会

男子シングルス 橋本 拓実 (2M) 予選Dブロック 1 位
1, 2 位トーナメント 4 位

蛭田 貴之 (2E) 予選Gブロック 2 位
1, 2 位トーナメント 1 回戦敗退

◎第35回福島県春季選抜ジュニアシングルステニス選手権大会

兼 第23回東北春季ジュニアテニス大会予選会

橋本 拓実 (2M) 3 回戦敗退

蛭田 貴之 (2E) 2 回戦敗退

福永 勇満 (2K) 2 回戦敗退

◎平成27年度第 4 回福島県小中高校生卓球選抜

強化リーグ大会

谷本 純一 (1E) 第 3 位

◎天皇杯・皇后杯平成27年度全日本卓球選手権大会

男子ダブルス 矢内 智大 (4M)

安齋 正樹 (4K) 1 回戦敗退

◎平成27年度第39回東北高等学校選抜卓球大会

兼 第43回全国高等学校選抜卓球大会東北予選会

女子学校対抗 小林 千莉 (2K)

高橋 百花 (2I)

鈴木 梨恵 (1K)

岡部あゆみ (1I) 予選リーグ敗退

◎第 4 回秋季東北地区高専硬式野球交流戦

福島 1-9 仙台名取

福島 3-9 一関

◎第23回東北高等学校新人水泳競技大会

男子

100m自由形 吉田 拓実 (1K) 第 6 位

200m自由形 池田虎太郎 (1I) 予選敗退

400m自由形 池田虎太郎 (1I) 予選敗退

200m平泳ぎ 佐々木龍之介 (1M) 第 8 位

100mハタライ 吉田 拓実 (1K) 第 4 位

400mホレール(今野, 佐々木, 吉田, 池田) 予選敗退

◎第52回東北地区高等専門学校体育大会ラグビー競技

1 回戦敗退

◎2015福島県総合バドミントン選手権大会

男子ダブルス 藁谷 真輝 (2M)

川音 裕也 (1M) 1 回戦敗退

文化部・研究会・サークル

■写真部

- ・第34回福島県高等学校総合文化祭写真展
- ・古殿町八幡神社例大祭の撮影会
- ・いわき街なかコンサート撮影
- ・裏磐梯紅葉撮影会
- ・冬の裏磐梯撮影会
- ・高校生対象写真ワークショップ
- ・古殿町フォトコンテスト
- ・第45回いわき市美術展覧会
- ・第3回学生フラフェスティバル撮影
- ・第3回福島高専写真部写真展

◎平成27年度いわき地区高等学校写真連盟写真展

「明けの旭を待つ」	今井 志信 (2C)	特選
「空中戦の制者」	今井 志信 (2C)	入選
「磯前に轟く飛沫」	今井 志信 (2C)	入選
「Fresh orange」	磯上 花音 (2I)	入選
「卯月の風薫るころ」	磯上 花音 (2I)	入選
「青春を踊る」	安藤 純奈 (2K)	佳作
「To become a brilliant」	磯上 花音 (2I)	佳作

◎第1回サンシャインいわき写真コンテスト

【学生部門】		
「咲き誇るマリーゴールド」	今井 志信 (2C)	特選
「聖者が街にやってきた」	今井 志信 (2C)	佳作
「可憐に麗しく」	磯上 花音 (2I)	入選
「主役の影で」	磯上 花音 (2I)	入選
「夏と笑顔と青春と」	安藤 純奈 (2K)	佳作

◎第22回東北地区高等専門学校文化部発表会

「SpaceTAXI-ShootingTRAIN」	今井 志信 (2C)	特選
「孤高なる女王、銀輪躍動す」	安藤 純奈 (2K)	入選
「海の声」	磯上 花音 (2I)	入選

■吹奏楽部

- ・第37回定期演奏会 実施
- ・第53回いわき市吹奏楽新人演奏会 出演

◎第43回福島県アンサンブルコンテストいわき支部大会

- 【大学の部】バリ・チューバ四重奏 銀賞受賞

■美術部

◎第22回東北地区高等専門学校文化部発表会		
「石膏デザイン2」	橋内 望 (5I)	特選

■茶華道部

- ・いわき学校茶道連盟第39回合同発表会 参加

■その他

◎全国高等専門学校デザインコンペティション2015

in 紀の国わかやま

【構造デザイン部門】		
・チーム1		
作品名「あめんぼ:re」	鹿又善憲・遠藤健悟・仁平成美 原田真衣・草野泰治	第21位
・チーム2		
作品名「Fukushima Lattice」	金成雅季・磯上友輝・田邊陽 金野実紗・原田一宏	第39位

■演劇部

- ・第58回いわき地区高等学校演劇コンクール 参加

■ロボット技術研究会

◎アイデア対決・全国高等専門学校		
ロボットコンテスト2015東北地区大会		
・Aチーム「おくとぼす」	小野敬裕・木村亘佑・小川遼	1回戦敗退 特別賞受賞
・Bチーム「ぐる輪」	江坂壮平・大和田遼	準決勝敗退 技術賞受賞 (全国大会出場)

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2015全国大会		
チーム名「ぐる輪」	江坂壮平・大和田遼・強口藍子	2回戦敗退 特別賞受賞

■ソフトウェア研究会

◎全国高等専門学校第26回プログラミングコンテスト

【課題部門】		
タイトル「RPS -Refuge process search-」	海藤育未・早川健太・小助川克也 加藤大貴・古田もも	予選敗退
【自由部門】		
タイトル「AR Life For All -誰でも・簡単に作れるAR-」	吉渉匠汰・佐々木和仁・遠藤右樹 秋元優希・小林遼太	予選敗退
【競技部門】		
チーム名「チームソフ研」	吉渉匠汰・佐々木和仁・小助川克也	本選1回戦敗退

■分子生物愛好会

◎第8回先端ものづくりチャレンジ2015 in 習志野

【ロボット競技部門】		
チーム名「堀越くまさんMONO」	ロボット名「メカかり君」	
鈴木萌花・笹川桃佳・鈴木琴乃・門井真理乃		本選進出・アイデア賞受賞

■ストリートダンスサークル

- ・いわき街なかコンサートinTAIRA2015 参加
- ・タイヘイ秋の交通安全2015パフォーマンスライブ 参加

■英語サークル

◎第9回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト		
岸 佑里香 (3I)		第2位 (全国大会出場)
◎第9回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト		
(スピーチ部門)	岸 佑里香 (3I)	出場 (入賞なし)

【空間デザイン部門】

作品名「はしる・とまる・ほるる ～道の駅・ほるる～」	熊谷純樹・志賀裕太郎 三浦千明・緑川果夏	予選敗退
-------------------------------	-------------------------	------

◎パソコン甲子園2015

(第13回全国高等学校パソコンコンクール)		
【モバイル部門】		
チーム名「一夜漬工房@ぬるま湯」	佐藤祐也・鈴木秀・神長沙也加	ベストデザイン賞



福島高専学校だより第100号を迎えるにあたって

学校長 中村 隆行

福島高専は、昭和37年4月に東北初の国立高専として開校した、いわゆる高専第一期校12校の一つです。これまで、時代の変化や社会のニーズに対応し、学科やカリキュラムの内容を逐次刷新してきました。とりわけ、平成23年3月に発生した東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故以降、福島浜通りの復興への貢献を、福島高専の教育研究活動の一つの大きな目標としています。平成26年6月に取り纏められた「福島・国際研究産業都市構想」、通称「イノベーション・コースト構想」は、福島浜通りをマイナスからプラスに変える施策であり、この構想の具体化を今後担える若い人材の育成を目指しています。

また、グローバル化への対応も急務であり、グローバルな視点とローカルな視点を併せもつ「グローバル人材」の育成についても、国や地方、地元産業界などからの厚いご支援をいただきながら、力を入れているところです。

これらの目標を、私は、「いわきから世界に活躍するイノベーション人材を育てる」というスローガンに纏め、日々鋭意努力しているところです。

「福島高専学校だより」の第100号の発刊に際しまして、読者の皆様方の、福島高専に対する、これまでに増してのなご一層のご支援をお願いいたします。

高専親子特集 (本校卒業生とその子からの一言)

電気工学科 2年 松本 千隼

本校に入学して二年、電気の詳細な専門教科と一般教科を学ぶことができました。まだ二年間なので、専門教科と言っても基礎中の基礎を勉強しているところです。一般教科では、特に文系の教科に苦勞しています。全ての教科が良い成績ではないので、これからも本校電気工学科の卒業生である両親に教わったりしながら、手を抜くことなく、しっかりと勉強していきたいです。

磐陽祭では、色々な団体が、出店や展示・発表を行っています。各学科の専門棟では、普段は見ることのできないような機器に触れたり、他学科の発表・展示を見学したりできます。これは、他の学校では体験できないことだと思います。今年も楽しみです。また、校内体育大会では、クラスTシャツを作ったりして、クラスの絆が深まった気がします。

これからも、この学校で学べることに感謝しながら、学校生活を楽しみ、しっかり将来を見据えて学習していきたいです。

電気工学科 第27回生 松本 哲也

在学期間（昭和63年4月～平成5年3月）当時の学園祭は仮装行列もあり、連日夜遅くまでクラス全員で準備しました。スペースシャトルを模した神輿の完成度は高く、後日養護学校の子供たちとの交流会を企画し、寄付しました。神輿を見た子供たちの笑顔は今でも忘れません。

卒業後は電力会社に入社し、火力発電所の運転保守に携わりました。平成17年からは常磐共同火力株式会社勿来発電所構内で、新しい火力発電方式：石炭ガス化複合発電（石炭をガス化し、その燃焼でガスタービンで発電する）の建設、試験研究を行いました。現在はいわき市と広野町にその発電方式を用いた発電所の建設が予定されており、そのエンジニアリングをしています。

素晴らしい経験と深い思い出を与えてくれた母校で、自分の子供達もまた学べることは、大変嬉しく誇りに思っています。入学式で久しぶりに聴いた校歌は、感無量でした。

コミュニケーション情報学科 3年 五十嵐 のぞみ

身を削る思いで受験勉強に励み、福島高専に入学したあの日からもう3年の月日が経ちました。高専生になって自分の「勉強」に対する考え方が大きく変化したように思います。

3年前、私にとっての勉強とは、受験のためだけに存在する苦しいもので、憧れの学校に入学するための唯一の手段でしかありませんでした。

高専に入学して間もなく、研究室の机に積まれた本や、図書館で大量の専門書を借りる先生を見た時に、勉強は受験のためだけのものではないとすぐに気がつきました。そして高専の授業を受けて、先生やクラスメイト、先輩と色々な話をするうちに、勉強して深く広い知識を持っている人や、それを生かして活躍する人は本当にかっこいいと思うようになりました。自分はそれに気が付くことができよかったですと思います。素晴らしい先輩方と肩を並べられるよう、勉学に励んでいきたいと思います。

娘が入学するまで

工業化学科 第12回生 五十嵐 喜雄

卒業後は、医薬や農業等の原料を製造する中小企業の研究開発職を経て、現在は経営に携わっております。3年前に一人娘が磐陽台の住人になりました。

娘の学業成績は、中学3年の夏休みまで決して芳しいものではなく、進路も曖昧な状態でした。オープンキャンパスへの参加から変化がありました。正門を入ると仰ぎ見るほどのケヤキの大木、よく手入れされた草木の数々、充実した施設、そして在校生の皆さんの活気に感動していたようです。寮生活は毎日が修学旅行のように楽しいものであると想像したに違いありません。結論すると、娘は福島高専に一目惚れしました。

夢で終わらせるな。成就するために精一杯のことをやってみろ！と話した記憶があります。合格圏からは程遠い状態から驚異的な追い上げをみせ、何とか夢をかなえることができました。これからの人生も、夢に向かって挑戦を続けてほしいと思っています。

物質工学科 5年 谷地 赳拓

自分は、先日5年間に及ぶ高専での学生生活を終えました。しかし、5年間当たり前に繰り返していた日々が終わってしまったことにいまだに実感がわきません。高専での生活を振り返ると学業、部活動、行事等ととても濃密な時間を過ごせたと思います。

学業面では、専門性の高い知識、経験を得ることができました。テストなどで辛いところもありましたが、クラスの皆と協力しながら勉強できたのはいい思い出になりました。

部活動では、バスケ部で5年間やり通すことができました。部長なども経験し、様々な苦労を通して人間として成長できたと思います。大会で結果こそ残せませんでしたが、先輩、後輩、顧問の先生方に恵まれ充実した時間を過ごすことができました。

こうして振り返ると、自分の高専での5年間は成長の5年間でした。これからは、高専で学んだことを生かし、学業面でも人間としてもさらに成長していきたいと思っています。

工業化学科 第20回生 谷地 文枝

高専を卒業後、現在の会社に入社し、お蔭さまで今年、30年の節目の年を迎えることができました。工業化学科を卒業し、主に技術開発部門の分析業務に従事してまいりました。

有機関連のクロマト分析から始まり、肥料の主成分分析、無機関連の前処理技術、半導体関連薬液中の超微量金属類の定量分析と、仕事を通し、非常に広範囲の分析技術を習得できました。現在は、それらの技術を活用し、開発部門の分析マネジメントの業務をしています。高専で学んだ沢山の技術が随所で役に立っております。私の高専時代は今とは違い女性は少なく、お世辞にも快適な学校生活ではなかったような気がします。

当時は愛好会で体育館が使えなかったバドミントンクラブに所属し、ひたすら草木台まで毎日走ったのが思い出です。技術力があってもコミュニケーション能力がないと大きな仕事を成し遂げることができません。縦割りの高専生活では是非それらを学び世界に羽ばたいてほしいと思います。高専教育の重要性を切に感じますとともに今後のますますのご発展を祈念致します。

建設環境工学科 山ノ内正司 (土木工学科 第4回生)

「東の福島、西の鈴鹿」。高専の東西の雄を表した言葉であつたらしい。何をもって雄としたのかは分からなかったが、入学した昭和44年の当時、私の小さなプライド心を満たすには十分であった。／2年生の夏、会津高校に進学した友人たちが夏期講習に明け暮れていた頃、私は北海道の雄大な自然の中を一人で自転車のペダルを踏んでいた。観光地以外、わざわざ旭川高専と釧路高専の校門まで行った記憶がある。／3年生の夏、寮生活に別れを告げて、正内町の家に家庭教師として住み込んだ。当時、高専生の家庭教師は引っ張りだこだった。2段ベッドの上に4歳離れた中学生、下に私という兄弟のような生活が始まった。不思議と苦にはならなかった。／4年生の夏、東北新幹線蔵王トンネルの間組の現場で1カ月を過ごした。下請け作業員のおじさんと相部屋だった。トランシットを担いで山歩きをしている自分の姿に、男のロマンを感じていた。

40数年前の出来事であっても、ふと思い出すたび気持ち丸くなる。

物質工学科 青柳 克弘 (工業化学科 第12回生)

43年前の4月、自立心が芽生え始めた会津の田舎町出身の15歳の少年にとって、入学式、寮の歓迎会から始まった高専生活は、希望に満ちたものであった一方、衝撃と望郷と勉強についていけるかという焦りの毎日でした。しかし、このころの体験が、今の自分を作っていると思っています。

当時は、公害が社会問題となっており、それらに関連した勉強をしたくて、高専の工業化学科(現物質工学科)に入学した学生もいました。私もその1人です。そういう時代背景もあり、関連した研究や調査を行っている先生方の研究室に低学年の時から出入りして、お手伝いしていたクラスメイトが私を含めて何人かいました。そのようにして専門に興味を持ち、将来を思い描いていった記憶があります。学生のみなさん、同じ高等教育機関でも高専は大学と違い、中学校を卒業したての早期から実践的な専門の勉強ができる学校です。ぜひ、先生方の研究室のドアをノックしてみてください。

物質工学科 内田 修司 (工業化学科 第16回生)

時間は恐ろしいほどゆっくり過ぎていた。国鉄平駅は通勤通学の利用者で混雑していた。事故が続くバイク通学の規制が始まった。登壇する学生主事に送られる長い長い拍手の意味がわからなかった。これからの英語の時代に単語すらわからなきゃ話にもならないじゃないか、辞書を引くと教えられた。プログラムはカード打ち込み、デバックよりリードエラーが深刻だった。実験室はドラフトよりも換気扇が頼りで、レポートは手書きで20ページ以上書くものですという指示を信じていた。資料は図書館、コピーがCPCからPPCになった。卒業生への餞に若い心と書いた先生、描きたいように描く見えてるように描くのには技術が必要だと自分なりの絵を追求させていた先生。柔らかい表面原子層の下にはバルキーな構造、ビックパンの前の宇宙、知らない世界の情報があつた。朝の学生寮には、SKY HIGHTが響いていた。夏への扉より先のリアル世界で、あつという間に過ぎる時間に驚くことになるなんて考えてもいなかった。

電気工学科 山田 貴浩 (電気工学科 第28回生)

クラスメイトの絆を深めた「クラス文集」

私が本校に入学したのは、元号が「昭和」から「平成」に変わって最初の春でした。入学式の日、明治団地から坂を下るときに見えた本校の満開の桜を今でも鮮明に覚えて

います。

入学したての頃は大変静かなクラスでしたが、それから5年の間に、ずいぶんと雰囲気も変わりました。クラスメイトとの思い出で特に印象深いのが、低学年の頃に担任だった秋山先生からのご提案で毎年度末に行った「クラス文集」作りです。学生のみならず授業担当の先生方にも執筆をお願いして、学生と先生方の作品が詰まった文集となりました。この「クラス文集」作りが、クラスメイトの絆を強くするのに一役買っていたようにも思います。

確かにクラスの雰囲気は良かったのですが、授業中もついつい和やか過ぎる空気になってしまい、「このクラスは今までの電気工学科とは一味違う」とよく言われていました。そのような私たちでも暖かくしっかり育ててくださった、担任の秋山先生・春日先生をはじめ、当時の先生方には感謝の言葉しかありません。



建設環境工学科 菊地 卓郎 (土木工学科 第28回生)

私の高専事典のページをめくると...

【高専時代】すべての事が現在の私を形成しているといっても過言ではない濃密な5年間。

キーワード

【土木工学科】1. 近況を聞くと、まだまだ自分も頑張ろうと思えるクラスメイト28回生。

2. 20歳での学会発表。3. 校内体育大会は優勝が使命。4. 忘れられない対面式。

【警陽寮】1. 生きていく強さを身に付けた場所。

2. 未だに会うとあの頃に戻れる友人との出会い。

3. 挨拶。4. 世の中の縮図。

【部活動】1. 人間関係。2. 全国各地で開催された高専大会での思い出。3. 夏の合宿。

物質工学科 柴田 公彦 (工業化学科 第29回生)

振り返ってみると、高専時代は勉強に随分時間をかけてきたように思います。

今や実験データは、パソコンの表計算ソフトを使用すれば手軽にグラフ作成や解析ができます。学生時代は売店で購入したグラフ用紙に手書きで点を書き込みグラフ作成しました。膨大なデータも1行表示の関数電卓で一つ一つ計算したものです。

今や分からないことがあれば、自宅や寮に帰ってからでもスマートフォンなどのインターネット検索を使用して簡単に調べることができます。学生時代はそんな便利なツールはなく、授業が終わったら多くの古い本が並べられている図書館1階に何時間もこもり、納得のいく答えが見つかるまで一冊一冊本を読み調べたものです。

卒業してから約20年で学生の勉強スタイルも様変わりしました。定年を迎える約20年後はどのように変化しているのでしょうか。

機械工学科 鈴木 茂和 (機械工学科 第32回生)

私が福島高専に入学したのは23年前でした。入学してすぐに寮や学科で対面式があり、上級生はとても怖かったと記憶しています。1年から3年までは担任の三男先生の影響もあって(?)陸上、3年の後半からは担任の菅原先生の勧めもあって高専ロボコンに参加し、充実した5年間でした。当時と今の教室の中を見比べると、昔は自動車やバイクの雑誌が教室にたくさんありましたが、今は全く見か

けることが無いので学生の興味の変化を実感します。4年生の頃は文字を送ることができるポケベルを使っている人が多く、その後PHSが使われたと思ったら、あっという間に携帯電話と置き換わったので時代の流れを感じます。情報センターのコンピュータは5インチフロッピーを使っていたり、5年生の教室が機械棟の3階にあたりと変わったことはたくさんありますが、先生と学生の距離が近いのは昔から変わりません。

●モノづくり教育研究支援センター 大和田 光宏
(機械工学科 第41回生)

私は、41回生として福島高専機械工学科に入学しました。入学当時は、低学年棟が完成したばかりで、新しい教室で高専生活が始まりました。

私の高専時代のほとんどは、部活が占めていました。部活では、高専ロボコンなどに出場するためのロボットを製作するロボット技術研究会に所属しており、毎年夏休みが始まる8月頃から大会が行われる11月ごろまでは、朝から晩まで友人と一緒に、高専ロボコンに参加するためのロボットの製作に一生懸命になっていました。高専ロボコンの結果としては、4年生の時に、福島高専として初めて東北地区大会で優勝することができ、友人たちと一緒に喜んだことを覚えています。その後の全国大会では、初戦で負けてしまいあまり良い結果を残すことができませんでした。充実した高専生活が送れ、良い経験になったと思います。

●学生課教務係 吉田 隆敬(物質工学科 第2回生)

福島高専の物質工学科を卒業して、15年が経ちました。振り返ってみると高専時代は、私の人格形成に重要な影響を残しています。

当時、私は将棋部に所属していました。高専祭では、将棋部の合間に、学科の体験実習を手伝い、友人が所属するエネルギー研究会の展示を冷やかしに行きました。世間の高校生が受験勉強に勤しむ頃、夏休みに友人とアルバイトへ行き、遊んでいました。定期試験やレポートに追われていたはずですが、さっぱり思い出せません。高専は私に、頑張るだけでなく楽しむことを教えてくれました。

また、5年間を同じ仲間と過ごしたことは、人としての寛容さを培ってくれました。楽しいことも気まずいことも受け入れて、仲間の存在を当たり前で認められる心の広さを得られたと思います。そうして残されたのが腐れ縁です。

卒業後も、その関わりは当然に続いています。家庭を持つ人、フリーライター、公共施設の昆虫標本を修復している人と、その道は様々です。それでも変わらない交流は、高専で培った関係の深さの証であるように思えるのです。

●学生課教務係 吉田 瑠美

(コミュニケーション情報学科 第9回生)

私の高専時代は現在進行中です。なぜなら16歳で入学、21歳で専攻科へ進学、23歳で事務部へ就職と今に至るまで福島高専に在籍しているからです。福島高専に入学した当時は、こんなにも長い年月を過ごすことになるとは、夢にも思っていませんでした。この15年のうちに、入学・卒業・就職・結婚・出産と人生の節目を経験しました。私がこんなにも長く高専にいられるのも、周囲の方々に恵まれたおかげです。また、高専で得た知識、部活で鍛えられた心身等、福島高専教育のおかげでもあります。今は仕事・家事・育児とまだまだ自分のことで精一杯の私ですが、今後は福島高専に貢献できる人材となるべく日々努力していきたいと思っています。

高専に通うようになって15年目の春を迎えようとしてい

ます。毎年見る高専の桜も、年齢を重ねる毎に見え方が変わってきました。これからどのように桜を感じるようになるのかを楽しみにしながら、高専時代を過ごしていきたいと思います。

●電気工学科 植 英規(電気工学科 第32回卒業生)

当時の福島高専は学科の新設や改組が続いた変革の時期だったようだが、電気工学科の学生であった私はそんなことは気にもせず、日々ハンダ付けをしたり、プログラミングをしたりと、健全な(?)高専色に染まりながら楽しく5年間を過ごした。

良くも悪くも今より個性的な授業が多かったと思うのは、自分自身が当時とは違う立場で高専を見ているせいなのだろうか。ある授業で質問した時に、先生から「オレが決めたんじゃないから仕方がない」というお言葉をいただいたのも今となっては良い思い出である。古き良き時代だったのか、それとも学生の奮起を促す先進的なアクティブラーニングの取り組みだったのかは不明である。ただ、おかげ様で(?)、自分たちでなんとかしようという意識を育むことはできた。思い出はいつも美しいものである。昔は良かった、とは特に思わないが。

●モノづくり教育研究支援センター 福崎 宏
(機械工学科 第27回生)

今回、「私の高専時代」という内容で執筆依頼が来たため、その当時のことを振り返って考えて見ました。私は本校の機械工学科、部活動はサッカー部に所属し、学生生活を送っていました。部活動では、東北大会の決勝で負けて悔しかったこと、学校生活では、校内体育大会や高専祭(現磐陽祭)、修学旅行などの思い出が鮮明に蘇ります。プライベートでは、クラスの仲間と遊び回ったこと、特に、運転免許取得後はバイク好きの仲間とツーリングでいろいろな場所に行ったことが思い出されます。振り返ってみて、勉強の思い出は出て来ませんでした。機械の実習は好きだったと記憶しています。高専は、社会に出てから大事なことを先生方に学んだり(当時は口うるさく感じることもありましたが)、今でも連絡を取り合う生涯の友人が出来たりと、現在の私の基礎を築いた場所であるといえます。

●学生課看護師 柴田 恵美(物質工学科 第3回生)

高専時代を振り返ると、まず4年間続けていた吹奏楽部の活動が思い出されました。

中学時代3年間部活を続け、土日や長期休暇中もほぼ休みが無く練習があり、達成感を感じていました。しかし、高専入学後は「休みの日は遊びたい」という怠惰な気持ちが優先し、帰宅部という生活を過ごしていました。夏期休暇を過ぎると次第に時間を持て余すようになり、再び吹奏楽部への入部を決意しました。入部後は、中学時代と同じような練習の日々が続き、何度か退部を考えましたが、大会や定期演奏会で達成感や充実感を得るたびに、もう少し頑張ってみようと思ったところ、卒業を迎えていました。

部活をしていなければ、ほんやりと4年間が過ぎていったことと思います。部活動により、充実した学生生活を過ごせました。大変な事やつらい事もありましたが、成長していくうえで全て貴重な経験だったと改めて感じました。年を重ねましたが、今後も経験を成長の糧にして学び続けたいと思います。

●モノづくり教育研究支援センター 谷地 藍
(電気工学科 第43回生)

私は平成20年度電気工学科卒業生です。入学初日、教室

に入り、クラスメートの顔を眺めたとき、自分以外みんな優秀そうだなと思うと同時に、うまくやっていると非常に不安でした。担任の先生は、鳥居先生と小泉先生でした。電気工学科では手書きの実験レポートがあり、私は要領が悪かったので、一年生のときに初めて徹夜したのを覚えています。レポートを書いていると、レポート用紙の表紙と厚紙が最後に残るので、それを捨てずに溜めて何冊消費したかを数えたり、使い終わったボールペンの芯を溜めて喜んでいました。5年間無線通信部に所属し、資格の取得やモデルロケット教室開催などの活動をしました。また、4年次から弦楽アンサンブル愛好会にも所属し、磐陽祭で演奏したこともいい思い出です。当時は、まさか自分が技術職員になって、お世話になった先生方と共に働くとは思っていませんでしたが、時折学生時代を思い出し、より良い学習環境作りに努めていきたいと思っています。

●電気工学科 橋本 慎也（電気工学科 第37回生）

私は高専時代、学級委員長（3年後期～4年）と卒業アルバムの編集委員長（5年）を務めました。部活動は硬式テニス部に在籍し、放課後はコートで汗を流しました。もちろん、実験レポートの執筆や定期試験の勉強などにも熱心に取り組みました。

私のクラスは電気工学科では珍しく7名も女子がいたものの、（記憶違いかもしれませんが）教室は華やかだったわけではなく、（私も含めて？）クラスメートはなかなか手を焼く連中の集まりで、特に優しい笑顔の担任にはご苦労をおかけしました。

はっきりとした心情の変化は覚えていませんが、4年生

も終盤に差し掛かった頃から将来の夢は母校で教員になることでした。学生の皆さんにもこの福島高専で夢を見つけてほしいです。それをお手伝いすることが私の役目だと思っています。

余談になりますが、卒業から数年後に母校に着任した際に「一緒に働けることを嬉しく思います」とおっしゃってくれた方は優しい笑顔でした。

●建設環境工学科 加村 晃良

（建設環境工学科 第4回生）

私が学生として過ごした十数年前は、専攻科がまだ設置されておらず、低学年棟もありませんでした。本校の社会的役割も当時から大きく様変わりし、学生や教員の方向性は多様化しています。

一方、私の高専時代はもっと単純でした。ちょうどその頃は、構造改革で建設業界の風当たりが強くなり始めた時期でしたが、勉強を頑張れば“なんとかなる”雰囲気がありました。ところが今は、単に頑張るといっても選択肢が多様であり、多くの学生が戸惑うのではないのでしょうか。教員として戻って1年が経ち、そういった面でのサポートの必要性を感じています。

高専時代の私には、この100号に書けるほどの実績や成果はありません。5年間打ち込んだ美術部では、「美術部史上、最も絵が下手な部長」と言われたほどです。私にはそんなエピソードしかありませんので、その分、在学中の皆さんには充実した学生生活を送って欲しいと思っています。

TOPICS

原子力機構榎葉遠隔技術開発センター開所式に参加して

機械工学科3年 強口 藍子

現在、福島第一原子力発電所の廃炉に向けて様々なところで様々な取り組みが行われています。その中でも私たちが期待を寄せているのが榎葉遠隔技術センターです。このセンターは実際の福島第一原子力発電所の階段や瓦礫を模擬した設備のほか、原子炉内で作業をすることを想定して訓練できるバーチャルリアリティシステムなどを備えています。

昨年10月に行われた開所式では、原子炉格納容器内部を調査するサソリロボットの操作の体験をし、思っていたよりも操作自体はやりやすい印象を受けました。しかし、実際の現場では原子炉内から送られる画像を頼りに操作すると聞いて、今以上の操作性、また遠隔操作をする時の確実性が求められるのだと思いました。それと同時にこの遠隔技術センターが開所されることにより、これまでの技術が今よりも発展し、福島第一原子力発電所の廃炉作業がより進んでいくのではないかと思います。



福島県中学生ロボット競技会について

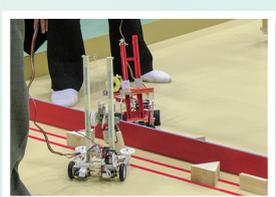
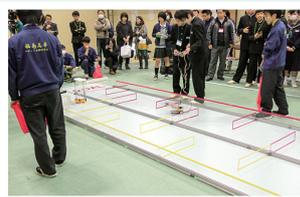
機械工学科4年 鳥羽 祐丘

福島高専では、毎年12月に福島県中学生ロボット競技会を実施しています。平成27年度で15回目の開催となりました。

競技会では、基本競技のスラローム競技と応用競技のつみき競技を実施しました。様々な工夫を凝らしたロボットが集結し、競技会の補助をした私たちも楽しませていただきました。また、たくさん練習してきたことがうかがえる、中学生の操縦テクニックにも驚かされました。参加してくれた生徒と指導していただいた先生方、保護者のみなさまに、お礼を申し上げます。

次回の競技会は、競技内容の変更を検討しています。新しい競技内容になりこれまでとは異なったロボットを作らなければなりません。アイディアに優れたロボットが参加してくれることを期待しています。

中学生ロボコンを通してロボット製作の楽しさを知ってもらい、そして、本校で高専ロボコンと一緒にできると嬉しいです！



専攻科特別研究公開発表会

専攻科長 原田 正光

専攻科特別研究公開発表会が3月8日に地域フォーラム第1部として、いわき市生涯学習プラザで、企業や市民の各層、本校教職員の参加を受けて開催されました。東日本大震災の復興をテーマにした研究内容の発表などを含め、専攻科修了の総まとめとして取り組んできた研究の成果をひろく市民に知ってもらおう機会となりました。

学生は普段から、プレゼンテーション能力の向上のため、学内発表や学会発表などの機会を利用して異なる対象にも柔軟に説明ができるスキルの修得に励んでいます。今回は専攻科修了直前の最後のプレゼンテーションとして7年間の思いを込めた発表となりました。

参加者の投票により決定される最優秀ポスター賞には、機械・電気システム工学専攻2年の飯塚将太さんの「原子力災害ロボット製作」が選ばれ、地域フォーラム第3部の産学官連携のつどいの中で中村校長先生から賞状と記念の楯が贈呈されました。



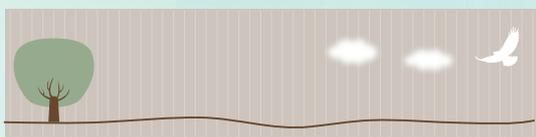
賞状と記念の楯が贈呈されました。



トビタテ! 留学JAPAN地域人材コースに採択された学生13名が第一回オリエンテーションを行いました

国際交流室 加藤 明子

2016年2月26日(金曜日)、福島工業高等専門学校大会議室にて、トビタテ! 留学JAPAN地域人材コース、「トビタテ! 浜通り再生ストーリーの主役たち」に採択された学生13名が第一回オリエンテーションを行いました。学生たちは、2月8日の採択発表後、市長への表敬、地元企業でのインターンシップ受け入れ依頼など、すでに活動を始めています。26日のオリエンテーションでは、3つの異なる教育機関(いわき明星大学、順天堂大学、福島工業高等専門学校)から参加している学生たちが自己紹介や将来の自分について語りながら、初めての顔合わせを行いました。また、今後のスケジュール、インターンシップにおける注意、浜通りグローバル人材育成事業推進協議会第一期生としてのグループプロジェクトについての話し合いや、海外渡航の手続きについての説明が行われました。

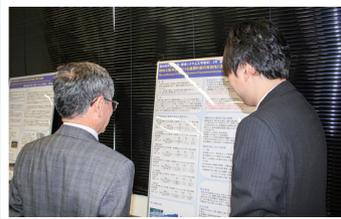


「地域復興人材育成」事業報告会の開催について

地域復興支援室長 青柳 克弘

平成23年度文部科学省採択事業「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択されて実施してきた「原子力に依存しないエネルギーと安全・安心な社会を目指す地域復興人材育成」の最終報告会を平成28年3月5日に本校を会場として実施しました。

この事業は、5人の任期付教員を採用し、本校の教員と一緒に「地域復興支援室」を組織して、再生可能エネルギー、原子力安全、防災・減災の3分野における教育、研究、地域貢献等を行うものでした。初めに支援室長の私が事業の全体報告をし、次に、再生可能エネルギー分野を樋口登特命教授が、原子力安全分野を實川資朗教授が、防災・減災分野を霜田宣久特命教授が報告しました。しかし、何よりの成果はどのような学生が育ったかということであり、復興人材育成特別コースを選択した専攻科生によるポスターセッションも企画しました。活発な質疑応答が行われ、学生の成長のあとが見られました。



「高専間ネットワークを活用した廃止措置基盤研究・人材育成に取り組む」

事業代表者 佐藤 正知

文部科学省の「廃止措置研究・人材育成等強化プログラム」に基づく公募に、「廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成プログラム-高専間ネットワークを活用した福島からの学際的なチャレンジャー」と題して応募し、昨年の10月はじめに採択され、12月1日に契約が成立した。この教育研究資金を使って、12月11日(金)と12日(土)に開催したキックオフ・ミーティングに引き続き、3月11日(金)には、本年度事業の仕上げとして、午前には植葉遠隔技術開発センター見学、午後は廃止措置人材育成高専等連携協議会総会と研究会・分科会、その後に懇親会を開催した。翌12日(土)には、「廃止措置研究・人材育成等強化プログラム(研究推進分野)研究報告会」を開催し、文部科学省原子力課長補佐の講演や日本原子力学会長の講演、廃炉創造ロボコン開催に向けた取り組みの説明に引き続き、8件の研究進捗状況報告と20件のポスター報告が行われた。全国各地の高専の他、大学、文部科学省、JST、JAEA、地元自治体、地元等の企業から60名を超える参加者を得て、いわきワシントンホテル、いわき市生涯学習プラザで開催した。



福島高専が米国キュリオン社と連携協力の覚書を締結

本校では、2月25日（木）に米国キュリオン社（ジョン・レイモント社長）との、福島第一原子力発電所廃止措置等に関わる人材育成を目的とした連携協力の覚書の署名式を行った。

本覚書には、同社が本校の学生に対し、米国の廃炉に係る施設の訪問や国内でのインターンシップの機会を提供することなどが盛り込まれており、今後は双方が協力して次世代のリーダー育成を目的としたプログラムを展開していくこととなる。

この署名式には、同社が実施するインターンシップへ参加予定の学生なども同席し、今後の活動に向けての抱負等を述べた。本校では、昨年度に廃止措置人材育成等連携協議会を発足し、全国高専との連携の下、廃炉に関する人材育成に取り組んでおり、今回の締結により今後の活動がさらに発展することが期待される。



平成27年度 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）事業説明会

COC+事業推進委員会委員 芥川 一則

平成28年1月12日にいわき産業創造館（ラトプ6階）において事業説明会が開催されました。

福島高専協力会会員企業、地方公共団体等の担当者約80名が参加しました。

本事業は福島大学を中心とし、福島高専が事業協働機関の一つとして実施する事業で、東日本大震災からの復興に取り組む福島県における震災及び原子力災害からの地域復興の担い手となる若者の育成と地元就職率向上を図ることを目的としています。

説明会では、福島大学の丹波史紀准教授から本事業の全体説明があり、その後福島高専が実施予定の企業と学生の交流を促進する企業訪問や企業交流会についての説明がありました。

引き続き、福島高専の企業でのインターンシップの取組や平成26年度の就職状況等についての説明がありました。



退職者ご挨拶



二流半の人生

機械工学科 木下 博嗣

もうすぐ64才、定年を迎えるに当たり今までの人生を振り返ってみました。何をやってもいい加減で適当に過ごしてきた、中途半端

な人生だったと思います。3才から12才まで習っていたバイオリン、小中高での勉強、中学から始めた卓球、二つの会社での7年間の仕事、大学・高専での研究、45才から始めたマラソン、すべて一生懸命努力した記憶はありません。その結果は、一流には到底及びませんでした。しかし、そこそこ平均点以上ではありました。高校、大学の卓球ではベスト8が良いところで、それより上位の成績はほとんどありません。現在マラソンでは年齢別の上位1割か2割の成績。いろいろ総合的に判断すると、三流の人生とは言いたくないし、また、本当は二流になりたいですが二流というのも図々しい。従って、お金を払って勉強する第一の人生、その知識を使ってお金を稼ぐ第二の人生は、二流半の人生と結論づけることにしました。この後の貯金を食いつぶす第三の人生も二流半を維持すべく、いい加減に頑張るつもりです。高専での5年間ありがとうございました。三流な文章ですみません。



一般教科 馬場 蔵人

この度、東京理科大学理工学部への就職が決まり福島高専を退職することになりました。6年前に福島高専へ着任し、皆様と研究・教育の場面で関わることで多くのことを学び教えられ大変感謝しております。短い間ではございましたが、本当にありがとうございました。お元気で。



一般教科 古田 正幸

この度、3月をもちまして福島高専を退職し、宮城学院女子大学の学芸学部日本文学科に転任することになりました。在職中は教員、事務職員の皆さまに大変お世話になりました。とくに、国語科の高野克宏先生、高橋宏宣先生の御指導、御厚情に深謝申し上げます。

学生の皆さんには、真摯に学習する姿に励まされてきました。どうぞこれからも高専の素晴らしい教育・研究環境の中で、自分の幅を広げることを意識して勉強してください。苦手なことほど、挑戦する気持ちが大切です。ちなみに、教科書の古典より、教科書に載せられない古

典の方が面白いです。機会を作り、ぜひ手にとってみてください。

今回の異動によって、皆さんにお目にかかれなくなるのは非常に寂しく思います。ただ、異動先もさほど離れているわけではありません。そして、世界は広いようで狭くもあります。今、進む道が別れたとしても、お互いの持ち場で一生懸命やっていたら、どこかでまたお目にかかれることもあるでしょう。私自身、胸を張って皆さんと再会できるよう、これからも精一杯頑張っていきたいと思います。

どうぞ皆さんもご健康に気を付けて、今後とも活躍ください。本当に、ありがとうございました。



産業技術システム工学専攻
特命教授 佐藤 正知

小職が担当した2件の卒業研究は、大学と異なり学生が若いことから不慣れで想像以上に苦労した。前の職場から引き継いだ研究テーマの成果が認められ、これらの卒業研究もその一環であったが、連携して研究を進めたJAEAの専門家とともに、平成27年3月に日本原子力学会賞技術賞を受賞することができた。

磐陽祭は、一般市民に放射線安全分野の取り組みをアピールするよい機会であったが、学生、教員の皆様の協力で作り上げることができた。JAEAの方々にはホールポティーカウンター、スパークチェンバー、高性能霧箱などを用意していただき、大変なお世話になった。おかげさまで良い思い出になった。

昨年、一昨年と廃炉人材育成の件で皆様に助けていただくとともに、他の多くの高専や大学や地元の企業やJAEAの方々の協力を得て取り組みがスタートし、地域復興人材育成の活動を次に繋げることができた。

教育・研究、地域復興人材育成、廃炉人材育成を通じた福島高専での3年半は、先生方、事務部の皆様のご支援があってはじめてできたことばかりであり、皆様から謝意を表します。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



産業技術システム工学専攻
特命教授 霜田 宜久

福島高専に防災・減災の分野の特命教授として着任してから、4年近くが経過しました。特に5年生を対象とした「防災通信」の選択の授業では、東京都での防災まちづくりの経験を活かし、地震や水害、土砂災害など幅広い分野にわたって、ハード・ソフトの両面から、分かり易い授業になるように努めてきました。おかげで受講生も100名近くになりました。また、幅広く防災・減災を教えているということで、防災士機構から昨年9月に防災士養成研修実施法人として認証されました。その結果、授業を受けた学生が救命講習会を受講し、防災士の試験に合格すると防災士となれることになりました。初めての27年度は、33名が受験し全員合格しました。東日本大震災以降、防災・減災が強く言われているなか、こうした取り組みを実施している高専は全国でも他に2校し

がなく、多少貢献できたかなと考えています。また、社会人講座では、震災復興で資格のある土木技術者が求められているなか、1級、2級の土木施工管理技士の資格試験の講座を、地元いわき市で格段に安い費用で毎年開催できたことは、多少役立ったかなと自負しております。



産業技術システム工学専攻
特命教授 樋口 登

思えばあつという間に過ぎ去った3年間でしたが、3月末をもちまして退職の運びとなりました。この間、皆様方には大変お世話になりました。

これまで40年に亘って超電導電力機器、ワイドバンドギャップ半導体などエネルギー技術開発に携わって来ており、その中で考えてきた様々な事柄を若い学生諸君に伝えるべく最大限の努力を払って来ました。結果的に、どれくらい伝えることができたかは必ずしも自信は有りません。しかしながら、現役生活の最後にこのようなチャンスを与えてくださった先生方には深く感謝申し上げます。

今の日本は3.11の震災からの復興を目指して、大きな坂を越えようとしています。いや、大きな坂にとりついたらばかりでもあります。若い学生諸君がこの状況にあって大いに力を振るおうとしているところを目の当たりにして、大変うれしく思いました。これからのご活躍を期待して、楽しみに見守らせていただきます。

小生もこれからは長く住んだつくばに戻り、地元の仲間と一緒に何らかの形で役割に立ちたいと考えています。

最後に皆様のご多幸をお祈りして、お別れのご挨拶と致します。ありがとうございました。



モノづくり教育研究支援センター
技術長 江尻 勝紀

私は、昭和49年4月1日付けで福島高専の技術職員として採用され、現在まで42年間過ごしてきました。平成21年4月1日にモノづくり教育研究支援センターが発足し、現在に至っています。センター運営に際しましては、教職員の皆様には大変ご協力いただき、業務依頼についてもいろいろとご指導いただき、ありがとうございました。

思い出として浮かんでくるのは、当時福島高専には、教職員の草野球チームがあり、早起き軟式野球大会に参加しておりました。この大会で、2度ほど優勝し県大会（開成山球場）に出場しております。結果としては、2度とも1点差で負けておりますが、試合終了後の反省会が楽しみでした。最近は、「いい汗をかいてないなあ」と懐かしく思います。

最後に、福島高専のご発展と教職員の皆様のご健康とご活躍を期待しております。本当にお世話になりました。

【辞職（転出）】

学生課長 高橋 喜一
茨城大学（学術振興局社会連携センター社会連携課長へ4月1日転出）

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されますが、平成26年4月の入学者からは所得制限を設けた新制度が実施されております。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて一定額が加算される加算支給制度もあります。

なお、就学支援金は市町村民税所得割額を基準に支給されるため、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援金制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせ下さい。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。

経済的理由による授業料免除の対象となるのは、4年生・5年生・専攻科生となります。

3年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません（平成27年度は、東日本大震災により被災した学生を対象とした特別措置の授業料免除については、3年生以下も対象となりました。）。

経済的理由による授業料免除の申請時期は、前期分は3月下旬、後期分は9月中旬となっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配付し、併せて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については、掲示・放送および学級担任・専攻科コース長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0734

平成28年度 行事予定（4月～9月）

4月

- 3日（日） 開寮（13:00）
- 4日（月） 入学式（本科・専攻科・編入学生）
新入寮生歓迎夕食会
- 5日（火） 始業式
新入生オリエンテーション
専攻科ガイダンス
交通安全教室（1年）
- 6日（水） 前期授業開始
- 13日（水） 全校・校外清掃日
- 15日（金） 定期健康診断（臨時休講）
- 20日（水） 基礎学力標準試験（化学）
（工学系4学科の3年生対象）
- 23日（土） 新入寮生歓迎行事
- 27日（水） 開校記念日
学生総会
- 29日（金） 公開授業

5月

- 9日（月）～13日（金） 専攻科推薦入試・社会人入試願書受付
- 11日（水） 後援会総会・学級懇談会・
寮保護者個別面談会
- 21日（土） 専攻科推薦入試・社会人入試
- 23日（月）～6月3日（金） 前期中間試験期間
- 25日（水） 共通科目試験日

6月

- 2日（木） 共通科目試験日
- 6日（月）～10日（金） 専攻科学力入試願書受付
- 15日（水） 学級委員長との懇談会
- 18日（土） 専攻科学力入試

7月

- 1日（金） 学生臨時休業
- 1日（金）～3日（日） 東北地区高専体育大会（秋田・八戸）
- 4日（月） 学生臨時休業
- 6日（水） 交通安全教室（3年）
- 13日（水）～15日（金） 編入学（推薦）願書受付
- 13日（水） 消費生活安全教室（5年）
- 20日（水） インターンシップ事前指導会（4年）
- 23日（土） 編入学試験（推薦）
- 26日（火）～8月1日（月） 前期期末試験

8月

- 3日（水） 集会、教室整備
- 3日（水）～5日（金） 編入学（学力）願書受付
- 5日（金） 補講日、体験入学準備日
- 6日（土）～7日（日） 体験入学
- 10日（水） 寮大掃除
- 10日（水）～9月26日（月） 夏季休業
- 11日（木） 閉寮（10:00）
- 12日（金）～17日（水） 学校閉鎖
- 18日（木） 開寮（13:00）

9月

- 6日（火） 編入学試験（学力）
- 27日（火） ミニ研究準備・発表会
- 28日（水） 集会、寮防災訓練、専攻科集会
- 29日（木） 校内体育大会

編集後記

学校だより100号を記念して「高専親特集」本校教職員の「私の高専時代」のページを組みました。原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございました。東日本大震災からも5年が過ぎ、一ヶ月遅れで入学した学生の卒業式の記事も100号に重なりました。一步一步積み重ねることで、過去から今日までの道のりと、未来への道しるべが見えてきます。改革を常に求められる時代ですが、一步一步進んでいきたいと思っております。今後とも福島高専をよろしく願います。 広報委員長 石原 万里

